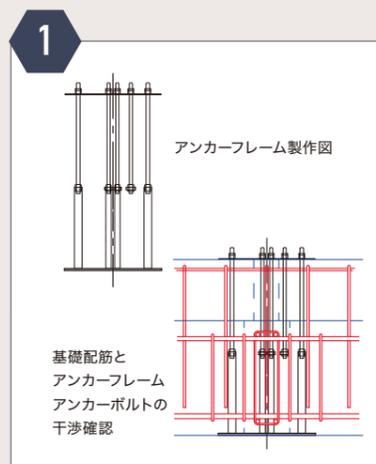


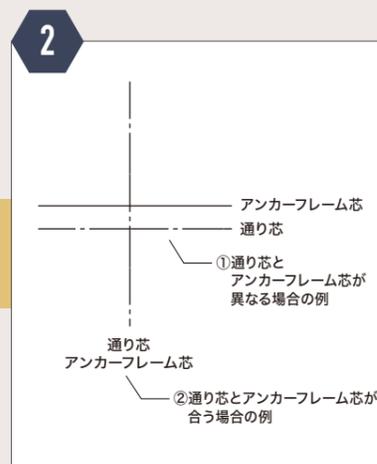


工程の流れ



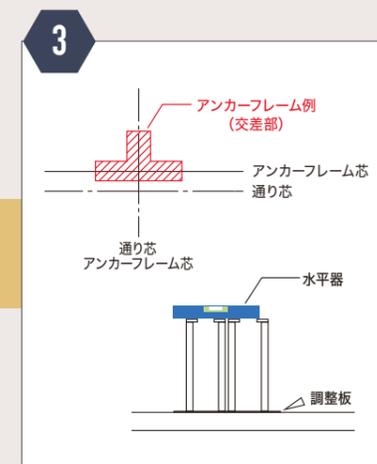
1 作図・製作

製作図は、設計図書、基礎配筋を考慮し作図する。承認された図面を基に製作する。



2 墨出し

アンカーフレーム芯の墨出しを行う。



3 アンカーフレーム設置

墨出し位置に合わせ、アンカーフレームを設置する。



4 アンカーフレーム固定

アンカーフレームが水平に据え付けられていることを確認し、固定する。



5-1 アンカーボルト設置・レベル調整

アンカーボルト頂部のレベルを確認する。



5-2 アンカーボルト設置・レベル調整

アンカーボルトを設計図書に従い、設置する。



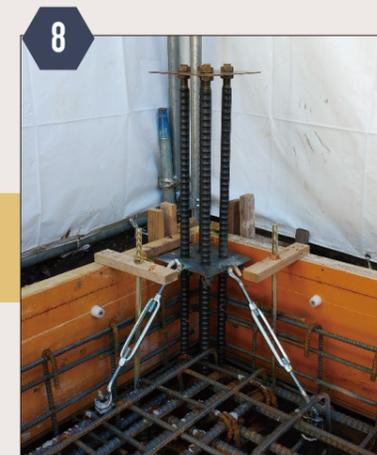
6 アンカーボルトの治具への固定

レベル調整終了後、ナット締めを行い、アンカーフレームに固定する。



7 基礎配筋・型枠設置

基礎配筋時に、アンカーボルトと鉄筋がぶつからないよう配慮する。



8 アンカーボルト位置調整・固定

基礎配筋・基礎型枠終了後アンカーボルト位置を確認する。



9 基礎コンクリート打設

基礎コンクリート打設の際に、ホースなどがアンカーボルトに接触しないよう注意する。



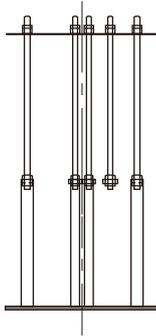
10 コンクリート打設完了・調整治具取り外し

調整治具がスラブコンクリート上に突出する場合、スラブコンクリート打設前に撤去する。

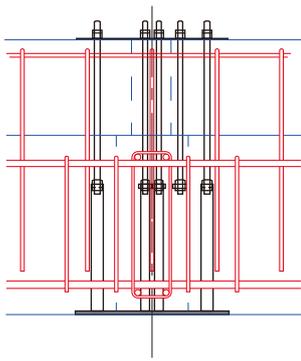


11 アンカーボルト頂部位置確認

頂部の位置が施工許容差内であることを確認する。



アンカーフレーム製作図



基礎配筋とアンカーフレーム
アンカーボルトの干渉確認

《作図》

製作図は、設計図書、現場躯体図を基に基礎の中に設置できる形状、基礎配筋を考慮し作図する。
製作図は承認を得る。

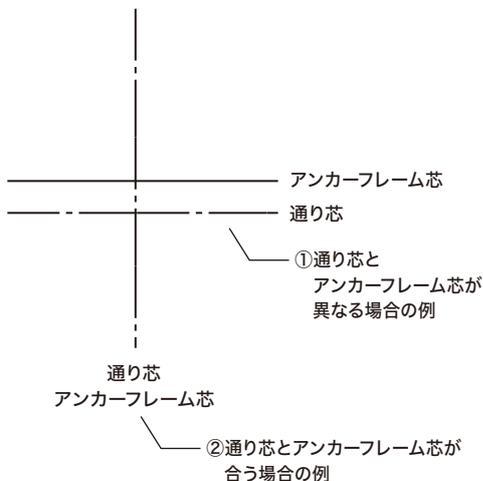
POINT

《作図の承認の上で、以下の必要事項を確認する》

1. アンカーボルトの本数、定着長さ
2. 基礎配筋とアンカーフレーム、
アンカーボルトの干渉確認
3. アンカーフレームの固定方法
4. アンカーボルトの固定方法

《製作》

承認された図面を基に製作する。
アンカーボルトの材質・定着長さは設計図書に従う。

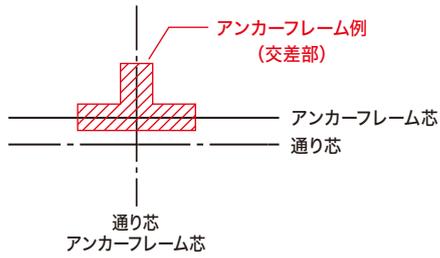


通り芯からアンカーフレーム芯の墨出しを行う。

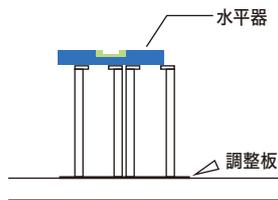
POINT

アンカーフレーム設置個所の捨てコンクリートはあと施工アンカーを施工する場合は、厚さ 100 mm 以上とする。

※あと施工アンカーを施工する場合は推奨とする。



アンカーフレーム芯に合わせて据え付ける



水平器・調整板を用いて
アンカーフレームを水平に設置する

墨出し位置に合わせて、アンカーフレームを設置する。

アンカーフレームは調整板等を用いて、水平に設置する。

アンカーフレームの水平度がコンクリート天端のアンカーボルト精度に影響するので、水平器等を用いて設置精度を確保する。



アンカーフレームが水平に据え付けられていることを確認し、固定する。

アンカーフレームの固定はあと施工アンカー等を用いて、基礎配筋時に動かないよう堅固に固定する。



アンカーボルト頂部のレベルを確認する。

アンカーボルトを設計図書に従い、設置する。

POINT

定着長さが異なる場合に注意する。

転倒防止措置をする。

アンカーボルトの垂直度を確認する。

写真提供：コンドーテック株式会社



レベル調整終了後、ナット締めを行い、アンカーフレームに固定する。

POINT

ナット部分は基礎配筋中の振動により緩みやすいので、レンチなどの工具を使用し堅固に締めつける。

コンクリート打設時のねじ部保護の為、テープなどで養生する。

写真提供：SMB 建材株式会社



《配筋》

基礎配筋時に、アンカーボルトと鉄筋が接触しないよう配慮する。

鉄筋の自立補助の目的で、アンカーボルトと鉄筋を結束しない。

鉄筋とアンカーボルトが干渉した場合、図面を確認し、誤りを是正する。

それ以外の要因は、監理者と協議する。

《型枠》

型枠建て込み時、アンカーボルトと接触しないよう配慮する。



基礎配筋・基礎型枠終了後アンカーボルト位置を確認する。

アンカー位置の調整が必要な場合はターンバックルなどを用いる。

ターンバックルを溶接する場合は、鉄筋用クリップを使用し、アンカーボルト・基礎配筋に直接溶接しない。

アンカーボルトが基礎コンクリート打設時に動かないよう固定する。

測量士、元請工事責任者立会いのもと位置調整、最終確認する。

写真提供：SMB 建材株式会社



POINT

基礎コンクリート打設の際に、ホースなどがアンカーボルトに接触しないよう注意する。

コンクリート打設中、アンカーボルトに付着したコンクリートは水洗いする。



基礎コンクリート打設終了後、ターンバックルなどの調整治具がコンクリートスラブ上に突出する場合、コンクリートスラブ打設前に撤去する。

《完了後の確認項目》

- ・アンカーボルトの長さ及び倒れの確認
- ・墨出し後の位置の確認



コンクリートスラブ・土間コンクリート・ならしモルタル等の基礎天端の仕上材を打設する前に、アンカーボルト頂部の位置誤差が施工許容差内であることを確認する。

CLTの施工上、アンカーボルト同士の相対位置が要点となる。フラットバーや合板等のテンプレートを作成することで、相対位置を要領よく確認出来る。

頂部の位置が施工許容差内であることを確認する。